

試験日 : 2026 年 2 月 21 日 (土)
入試種別 : 大学院入学試験(4 月入学)修士課程 春期試験
学部・研究科 : 文学研究科 東洋史学専攻
科目名 : 専門科目

解答又は解答例

問一

【解答例について】東洋史学の学問領域に関する知識を問う問題である。解答が一義的ではなく、解答例の提示はなじまないことから、採点のポイントを示す。

①は、東洋史学の研究対象とする文化史について、基礎的な知識にもとづいて、適切な研究テーマを設定できるか。

②は、①の研究テーマについて、歴史学的な視点から、問題を立て、適正な研究方法や、考察における視点設定が適切であるか。基礎的な知識にもとづいているか。

①と②の答案について、右の点をふまえて総合的に評価する。

問二

【解答例について】当該問題は、受験生の史料読解能力を問うものである。採点は問題文を正しく読解し、理解しているかを踏まえて、総合的に評価する。以下に掲げる書き下し文・要約はあくまで解答の一例である。

①解答例

鄭玄、字は康成、北海高密の人なり。(中略)玄は少くして郷の耆夫と爲り、休を得て歸るや、常に學官に詣り、吏と爲ることを樂しまず。父、數しば之を怒るも、禁ずこと能わず。遂に太學に造りて業を受け、京兆の第五元先に師事し、始めて『京氏易』、『公羊春秋』、『三統歷』、『九章算術』に通ず。又た東郡の張恭祖に従いて『周官』、『禮記』、『左氏春秋』、『韓詩』、『古文尚書』を受く。山東には問うに足る者無きを以て、乃ち西のかた關に入り、涿郡の盧植に因り、扶風の馬融に事う。

②解答例

鄭玄は郷の小吏を勤めたが、学問への志は高まるばかりだった。洛陽の太学で、第五元先、張恭祖から、易、詩、書、周禮、礼記、春秋公羊、左氏などの五經の学をおさめた。ついに長安にゆき、盧植の紹介により、後漢時代の大儒である馬融に師事して学問をおさめた。

問三(1)

【解答例について】

当該問題は、受験生の史料読解能力を問うものである。採点は問題文を正しく読解し、理解しているかを踏まえて、総合的に評価する。以下に掲げる書き下し文、現代日本語訳はあくまで解答の一例である。

①解答例

『唐會要』に曰く、永徽以後、左、右史惟だ對を仗下に得るのみ、後の謀議はみな聞かず。姚璩請う、仗下に言うところは軍國の政要、宰相一人撰録し、時政紀と號す。又た李吉甫、憲宗の時政紀を問うに對えて曰く「是れ宰相の天子の事を記し以て史官に授くの実録なり。古に左史は言を記す、今、起居郎是れなり。右史は動を記す、今、起居舍人は是れなり。永徽中、宰相姚璩造膝の言或は下聞せざるを慮り、因りて奏對に隨いて記すを請う。」是れ則ち其の事は唐の高宗の時の姚璩の請より起まるなり。

②解答例

『唐會要』には、次のようにある。永徽年間以後、左史、右史は、朝廷において、皇帝への直接面談である對を陛の下から見知ることができるだけであり、朝議のあとの皇帝と宰相の謀議はまったく聞くことができなかった。そこで姚璩が、皇帝と直々に論じられる軍事国政上の重要問題については、宰相一人のみが記録編纂して、時政紀(時政記)とよぶことを提案した。

また、憲宗が時政紀について質問したところ、李吉甫は次の様に答えた。「これは宰相が天子の行動を記録して史官にさずける実録です。古には、左史は君主の言葉を記しました。現在では、起居郎がこの役目にあたります。右史は行動を記録しました。現在では、起居舍人がこれを担当しています。永徽年間に、宰相の姚璩がひざをつきあわせて皇帝と直接話した内容が記録に残らないことを配慮して、上奏・応対ごとにその内容を記録することを願い出て始まったものです。」つまり時政記のことは唐の高宗の時に姚璩の提案により始まったものである。

問三(2)

解答例

世襲による非常に積極的なハールーン・アッラシードの統率によって、困難がなかったわけではないが、宮廷と帝国の主要地域における彼のアッバース朝優先は、明らかにうまく機能してきた。しかしながら、彼が死去するとすぐに、王朝中央および王朝の多くの周辺部における様々な有力集団間の潜在的な競い合いが、継承の仕組みの中で集約され、まもなく、帝国大半の至るところで、再びまず最初にイラクとホラーサーンにおいて、年長の二人の息子たちとその支持者たちや盟約者たちを対立させる暴力的な衝突に至った。示唆される通り、この新たな継承の危機は、アッバース朝による統制から外れて急速に悪化することを防ぐのにその息子のどちらもが相次いで失敗し、猛烈な競い合い、激しい分裂、この世の終わりのような大混乱というさらなる10年を予告するものであった。これは、フィトナの時、即ち、ウンマの分裂と試練の時として、再び思い起こされた。フィトナとして思い起こされる先立つ時期とは異なり、今回は主として、アッバース朝に連なる者たち、および、地方総督や同盟者から成るその王朝の多くの対立しあう集団に連なる者たちの内部に主要な断層線が走った。その結果は、それらの者たちを、王朝そのものに連なる者たちを含め、再び根本的に変えたものの、彼らの外観に影響を及ぼすことはなく、その外観はアッバース朝というダウラの外観のままであった。